

なかぐしくうどうん  
中城御殿跡地整備検討委員会

第 1 回

7 月 1 4 日（水） 14:00～16:00

**【資料 2】これまでの取組について**

- |                               |            |
|-------------------------------|------------|
| 報告 1 ) 現行計画（平成22～26年度）の概要について | 3 p ～16 p  |
| 報告 2 ) 平成26年度以降の動きについて        | 17 p ～23 p |
| 報告 3 ) 発掘調査の概要について            | 24 p ～27 p |



## 【資料2-1】

### 報告1) 現行計画（平成22～26年度）の概要について

1. 現行計画の検討経緯
2. 計画対象地
3. 中城御殿の歴史的概要
4. 中城御殿跡地に関する現行計画の概要
5. 松崎馬場の歴史的概要
6. 松崎馬場・龍潭整備に関する現行計画の概要

# 1. 現行計画の検討経緯

現行計画

計画・業務名	年度	概要
首里城公園基本設計	S62年度	県営公園区域の基本方針、全体とエリア別整備計画策定 ※中城御殿跡は県立博物館を現況利用し前庭に地下駐車場設置 松崎馬場は、世持橋からの眺望景観や松並木等歴史風致を回復する
首里城公園整備計画	H7年度	県営公園の整備計画の見直し。 ※中城御殿跡は公園のレストセンターとして位置づけ（県立博物館移転）。中城御殿を可能な限り復元し、展示・案内機能、地下駐車場等を配置
首里城公園調査測量業務	H18年度 H19年度	中城御殿跡地について、遺構調査、聞き取り調査、古写真等の根拠資料の収集・整理。施設の復元可能性を検討
中城御殿跡地整備検討業務 【基本構想】	H22年度	中城御殿の歴史的価値や公園整備の意義の確認、基本方針、土地利用に関する基本的な考え方となる基本構想の検討 ※地下駐車場は設けないことが決定
中城御殿跡地整備検討業務 【基本計画】	H23年度	基本構想及び、資料調査や遺構発掘調査、周辺地域の動向を踏まえた、施設全体の整備基本計画の検討（松崎馬場含む）
中城御殿跡地整備検討業務 【表御殿東側エリア】	H24年度	木造復元が検討されている「表御殿東側エリア」（敷地南東）の詳細検討（松崎馬場含む）
中城御殿跡地整備検討業務 【表御殿西側エリア】	H25年度	地域のコミュニティエリアである「表御殿西側エリア」（敷地南西）の利用運営・展示計画に基づく詳細検討
中城御殿跡地整備検討業務 【特別展示エリア・ 上之御殿エリア】	H26年度	中城御殿全体の展示計画及び「特別展示エリア」（敷地北側）や「上之御殿エリア」（敷地北西）、外構等の詳細検討

## 2. 計画対象地



### 3. 中城御殿の歴史的概要

- 中城御殿は琉球王国の世継ぎ（世子<sup>せいし</sup>中城王子）の屋敷で当初は首里高校敷地内に建設。  
『球陽』によると1868年に現敷地への移転が決定、1870年11月に着工、1874年3月竣工、1875年に世子（尚典）が移住。
- 1879年の琉球処分による首里城明け渡しにより尚泰王以下、尚家一家が移住して以降、「尚侯爵首里邸」となる。
- 1945年、沖縄戦で多くの宝物とともに炎上。



アメリカ軍が撮影した航空写真（中城御殿部分）  
アメリカ国立公文書館所蔵（沖縄県公文書館複製所蔵） 1945年（昭和20）4月2日撮影

#### 【施設の特徴】

- 世子殿としての時期（1875～1879年）、沖縄尚家邸としての時期（1879～1945）がある。
- 首里城、<sup>きこえおおぎみうどうん</sup>聞得大君御殿や<sup>おおみうどうん</sup>大美御殿といった王国の重要施設にあった文物・祭祀等の機能が移され、沖縄戦まで琉球王国の伝統文化が継承された場所。
- 王家の屋敷として歴史的・建築的に価値のある施設。

敷地3,000坪（約9,900㎡）余、建物は別棟（米蔵、炭蔵など）除き800坪（2,640㎡）余。

明治から昭和以降に増改築が行われ、近代建築技術も導入。



正門



玄関



御広間東面と庭園（奥は中門A）

写真：沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館所蔵

## 4. 中城御殿跡地に関する現行計画の概要

### ①歴史的・文化財的価値

#### 中城御殿の歴史的、文化財的価値

- 王国末期から戦前に至る王家ゆかりの屋敷として、歴史的・建築的に価値が高い施設
- 往時の儀礼や習慣、貴重な美術工芸品の情報は、首里城の究明においても活用
- 中城御殿やそれ以前の遺構が確認され、文化財指定に値するまとまりのある遺跡群としての評価
- 古写真、聞き取り調査、竣工間取図などの、復元（再現）を可能とする根拠資料が存在
- 往時の歴史空間を再現することにより、琉球・沖縄の歴史、王家の生活文化に関する情報発信に寄与

### ②基本的な考え方

#### 文化財指定化への目標設定

中城御殿は国指定史跡、松崎馬場（龍潭一帯）は国指定名勝を目標とし、その評価に値する整備を今後検討する。

#### 時代設定（復元整備）

中城御殿については、1874（明治7）年に現在の敷地にて竣工し、沖縄戦まで存在していたことが明らかであり、整備の時代設定については、1874年～1945年とする。

出典：「平成22年度中城御殿跡地整備検討業務」

## 4. 中城御殿跡地に関する現行計画の概要

### ③基本方針

#### イ. 歴史・文化的価値を尊重し、文化財指定にもたえうる整備を行う。

- 中城御殿や松崎馬場は、歴史・文化的価値が高い施設であり、こうした価値を尊重し、発掘調査や関係資料の検討に基づく整備を行う。
- 両敷地の発掘出土の状況や周辺文化財の分布をふまえ、史跡（中城御殿）や名勝（龍潭と松崎馬場）の文化財指定化を目指し、その評価に値する整備や利用を行う。
- 当初の整備計画で検討されていた地下駐車場については、敷地内に残る遺構や、首里地域のまちづくりの動向などを考慮し、設けないこととする。

#### ロ. 歴史・文化の拠点としての魅力度の高い施設整備を行う。

- 沖縄の優れた建造物（木造建築、石造建築）や庭園や植栽、道等の往時の姿を再現するとともに、歴史的風致に配慮した修景及び施設計画を行う。

#### ハ. 地域に開かれたコミュニティの場を形成する。

- 整備の進捗段階において、広く地域に公開し、中城御殿に関する価値を共有し、市民参加による施設利用の考え方を検討し、地域に開かれた公園整備を目指す。
- 首里城と首里地域における歴史・文化の理解を深める施設として、首里地域の散策型観光の拠点として、歴史・文化情報、観光レクリエーション情報を提供する。
- 地域に関わる行事や伝統芸能等について積極的な導入を図り、地域の公園として、適性かつ効果的な運営管理を図る。

#### ニ. 国営沖縄記念公園首里城地区（国営公園区域）との一体化を図る。

- 来訪者が県営公園と国営公園を円滑に利用できるよう、適正な利用運営の調整を図る。

出典：「平成22年度中城御殿跡地整備検討業務」

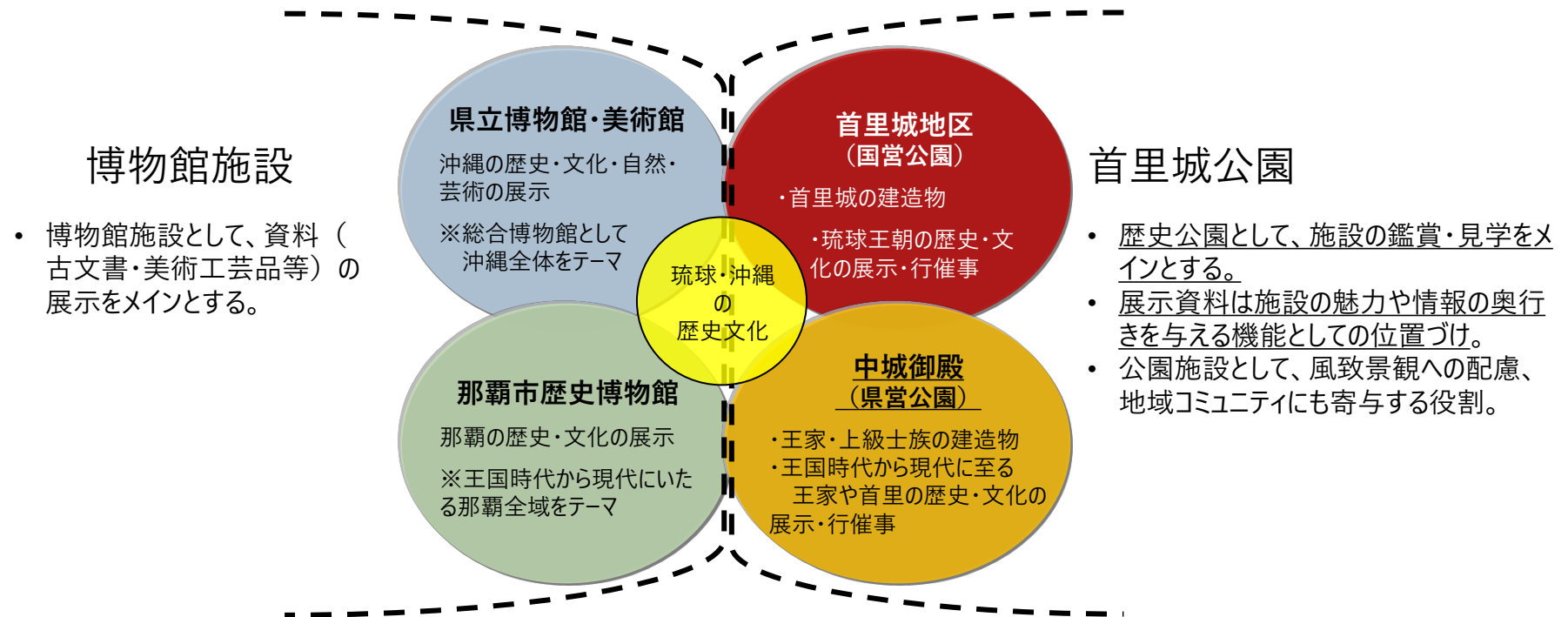


## 4. 中城御殿跡地に関する現行計画の概要

### ④歴史文化施設としての関連施設との連携と役割分担

- 中城御殿においては、国営首里城公園区域と連携した利用運営を図るとともに、歴史文化施設として、県内の博物館施設との連携や役割分担を図る必要がある。
- 首里城公園（首里城地区及び中城御殿）においては、復元された施設の鑑賞・見学を核にすえた施設であり、これら施設のテーマや設定年代に沿った展示・行催事についても分担が対応できると考えられる。
- 博物館施設については、各館が持つ施設コンセプトやテーマがあり、取り扱う地域の範囲やテーマ等によって分担が必要となる。
- これらをふまえて、今後は首里城公園内、さらには関連施設との連携・協議を図っていく必要がある。

関連施設との連携や役割分担のイメージ図



出典：「平成23年度中城御殿跡地整備検討業務」

## 4. 中城御殿跡地に関する現行計画の概要

### ⑤ 展示テーマ

施設  
コンセプト

琉球王家の屋敷と生活－王国末期から近代における琉球建築と王朝文化の継承－  
(首里の歴史・文化、首里城及び周辺の文化遺産、風格ある歴史的まちなみの再生)

- 施設コンセプト「琉球王家の屋敷と生活-王国末期から近代における琉球建築と王朝文化の継承-」を踏まえ、王家の文化、王国末期から近代期の王家や首里、沖縄の動き、首里のまちなみなど、時代的な役割、首里地域を含めたテーマ展開が考えられる。
- 展示テーマを「琉球王家の屋敷と生活」とし、特別展示については、首里尚家資料（那覇市歴史博物館蔵）を含めた首里の御殿・殿内の資料等の展示を視野に入れる。

首里城（城郭内） 琉球王国の栄華-琉球王朝の建築と営み-	
<p><b>南殿・番所</b> 「プロローグ」</p> <p>首里城に関する展示導入部</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>琉球王国の概説</li> <li>琉球文化の紹介</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>＜特別展示室＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>琉球文化に関する工芸品</li> <li>南殿・番所、書院・鎖之間の関連する展示</li> </ul> </div> <p>延床面積約609㎡ 特別展示室：99.19㎡ 特別収蔵庫：37.43㎡</p>	<p><b>黄金御殿</b> 「物が語る琉球王朝」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>正殿への期待感を高める展示</li> <li>女性の空間を示す展示</li> <li>質の高い展示（借用展示）</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>＜特別展示室(1)＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>正殿に関する文物</li> <li>国王に関する文物</li> <li>城内女性に関する文物</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>＜特別展示室(2)＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>尚家関係の実物コレクション</li> <li>借用展示</li> </ul> </div> <p>延床面積約991㎡ 特別展示室：95.0㎡ 寄満特別収蔵庫：93.5㎡</p>

中城御殿 琉球王家の屋敷、首里の生活文化
<p><b>中城御殿 特別展示施設</b> 「琉球王家の生活」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中城御殿に関連する資料</li> <li>首里の御殿・殿内に関連する資料</li> <li>王国末期から近代以降における王家の経緯を理解する展示。</li> <li>首里のまちなみや文化を示す展示</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>＜特別展示室＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>首里の御殿・殿内に伝わる実物資料（衣裳、道具、古文書）</li> <li>人間国宝の作品や首里の伝統工芸（染織・紅型・漆器等）</li> <li>首里地域の特産品など</li> </ul> </div> <p>延床面積：約1,500㎡ 特別展示室：237㎡ 特別収蔵庫：180㎡</p>

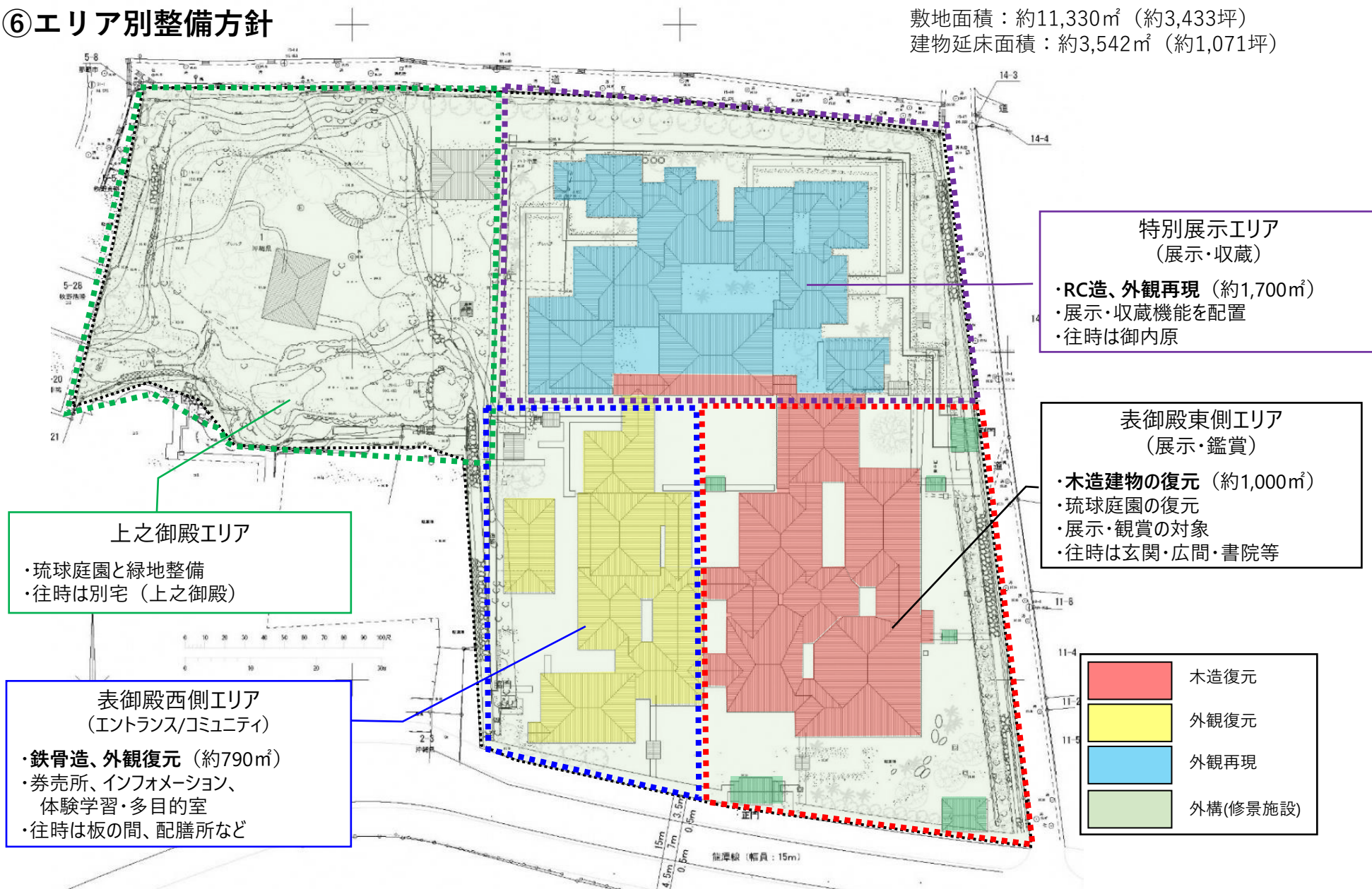


国宝 琉球国王尚家関係資料  
(那覇市歴史博物館所蔵)

# 4. 中城御殿跡に関する現行計画の概要

## ⑥エリア別整備方針

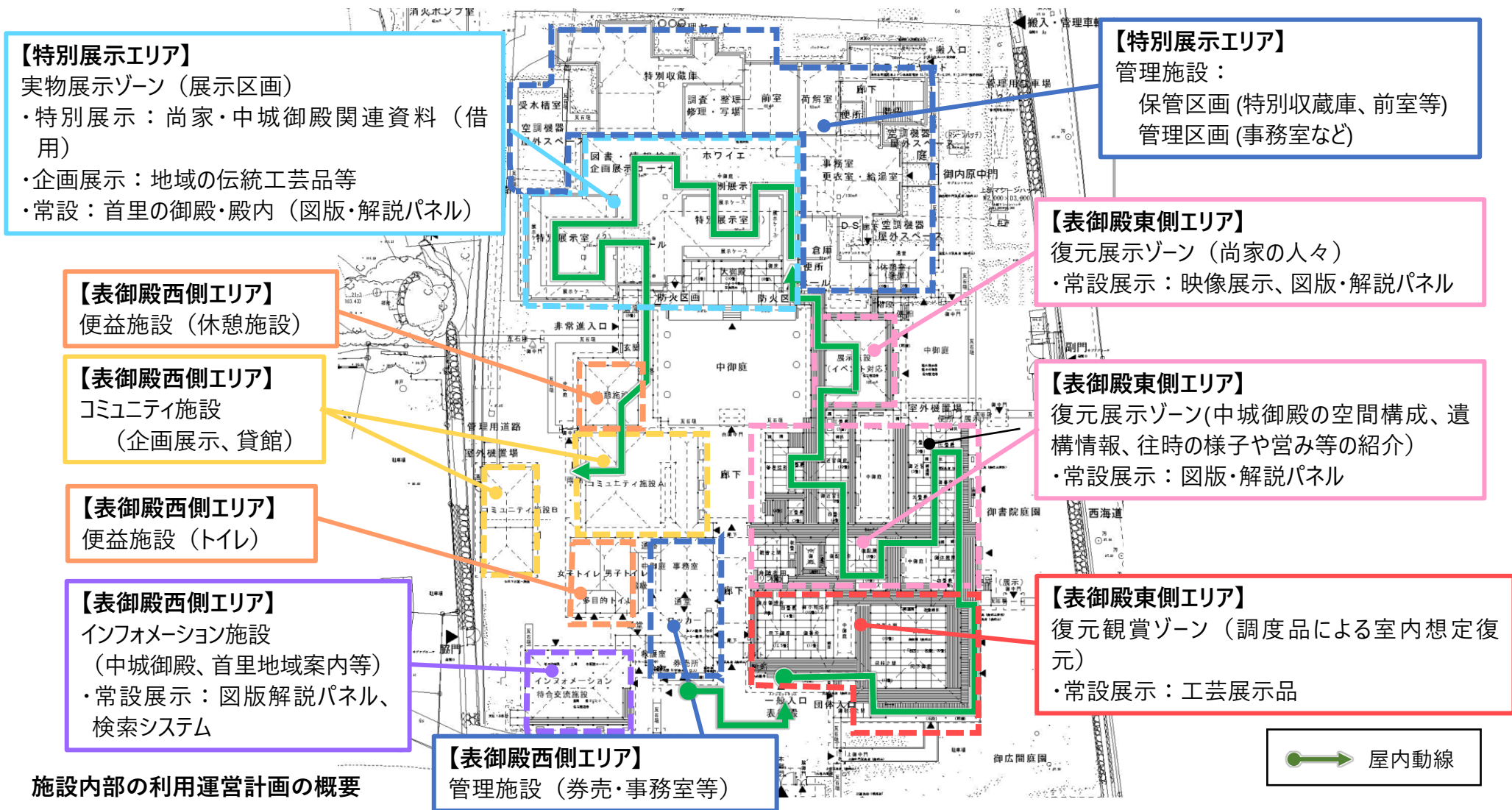
敷地面積：約11,330㎡（約3,433坪）  
 建物延床面積：約3,542㎡（約1,071坪）



# 4. 中城御殿跡地に関する現行計画の概要

## ⑦利用運営計画

復元建物を展示施設として鑑賞する復元観賞ゾーン施設及び復元展示ゾーン施設、実物資料を展示する実物展示ゾーン施設の他、コミュニティ施設、管理施設、便益施設等で構成。

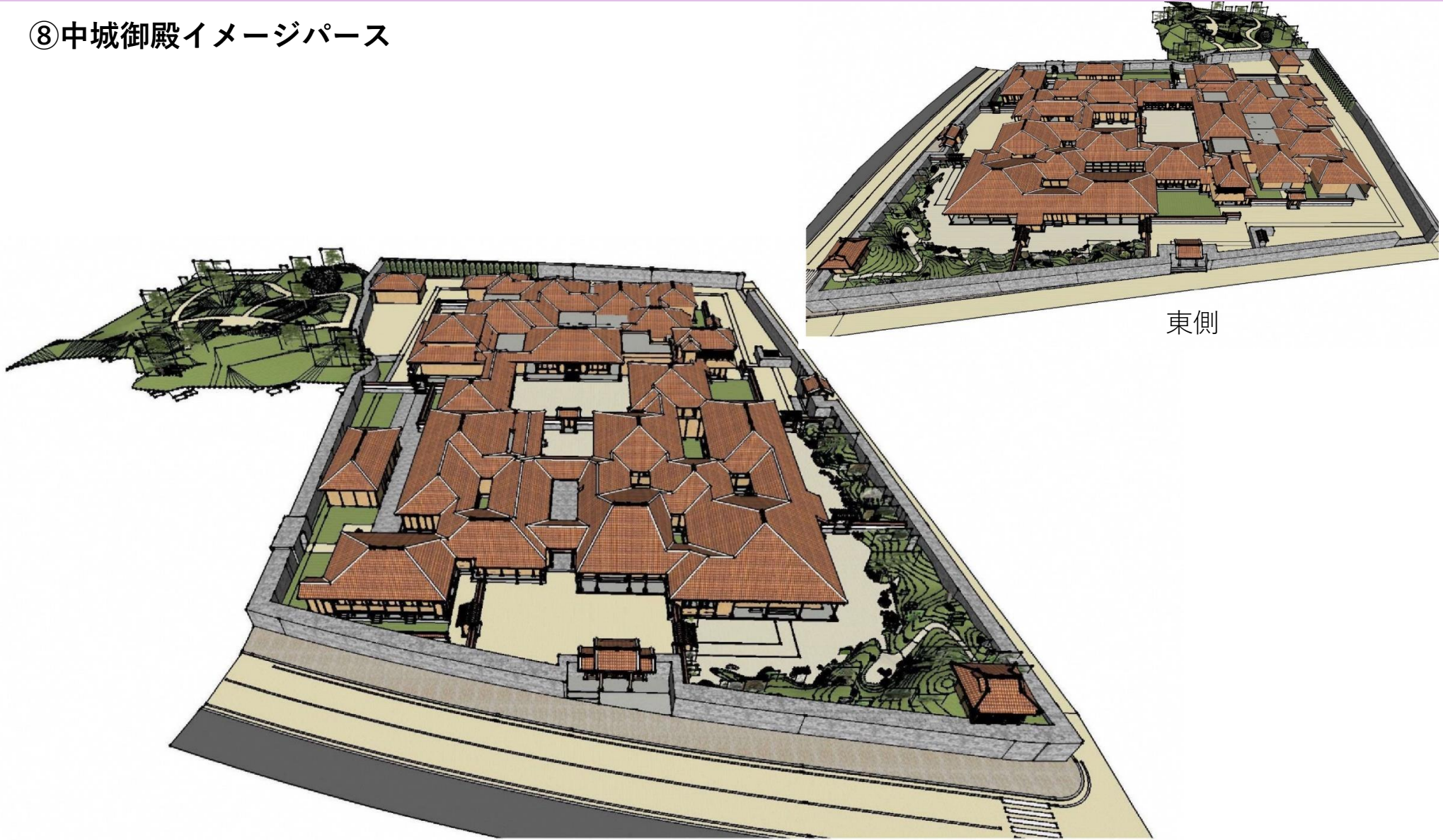


施設内部の利用運営計画の概要

出典：「中城御殿跡地整備検討業務報告書」（平成24～26年度）をもとに整理

## 4. 中城御殿跡地に関する現行計画の概要

### ⑧中城御殿イメージパース

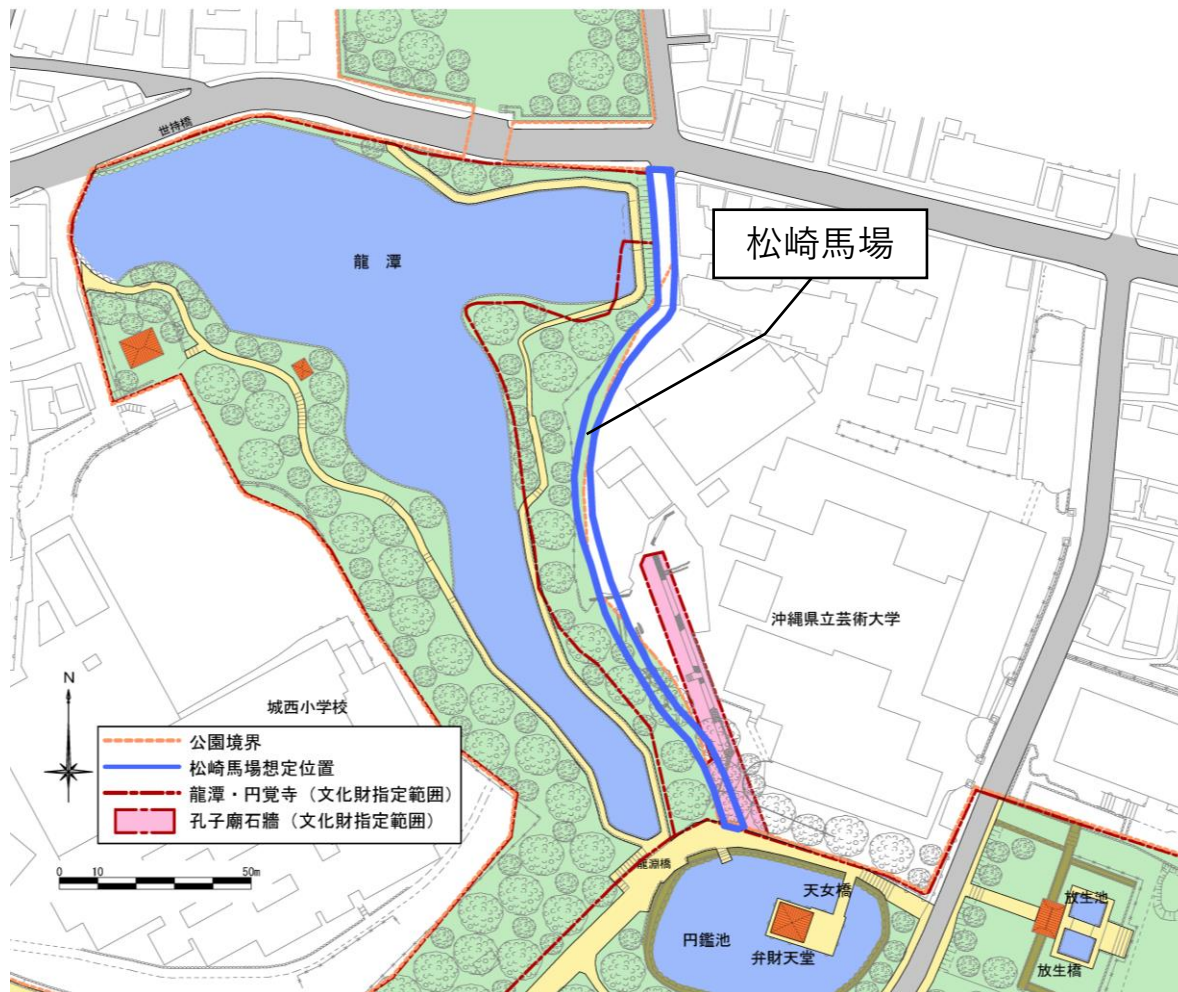


中城御殿イメージパース（正面、龍潭側より）

図版：「平成26年度中城御殿跡地整備検討業務報告書」より

## 5. 松崎馬場の歴史的概要

- 松崎馬場は、国学・孔子廟の北側に隣接し、首里城から本島中北部に延びる街道「西海道」の一部であった。
- 松崎馬場の名称は琉球松が植栽されたことに由来。
- 冊封使の来琉に際して催された重陽の宴では、爬竜船競争を観覧できる臨時の棧敷席も設置された。
- 松崎馬場の松並木は戦前まで龍潭一帶の景観の形成に寄与していた。龍潭と「国学・首里聖廟石垣」はそれぞれ県指定史跡に指定されており、周辺一帯を含め文化財的な価値の高いエリアである。



松崎馬場及び龍潭（首里龍潭ヨリ旧首里城並二師範学校ヲ望ム 写真：那覇市歴史博物館）



国学首里・聖廟石垣

# 6.松崎馬場・龍潭整備に関する現行計画の概要

## ①整備方針等

### 整備方針

#### 基本方針

- 松並木を中心とした歴史的風致景観の再生
- 市民の憩いの場としての「道広場」の形成
- 中城御殿、龍潭と西海道が一体となった復元整備

#### 復元整備年代

- 古写真が残る明治後期から、先の大戦により消失するまでの松崎馬場を復元することを基本とする。

#### 歴史的風致景観形成目標

- 古写真の琉球松は樹高が約20mあり、琉球松は成長に時間がかかることから、竣工時から約50年後を歴史的風致景観形成の目標とする。

### 利用運営計画

#### 歴史的風致景観の鑑賞

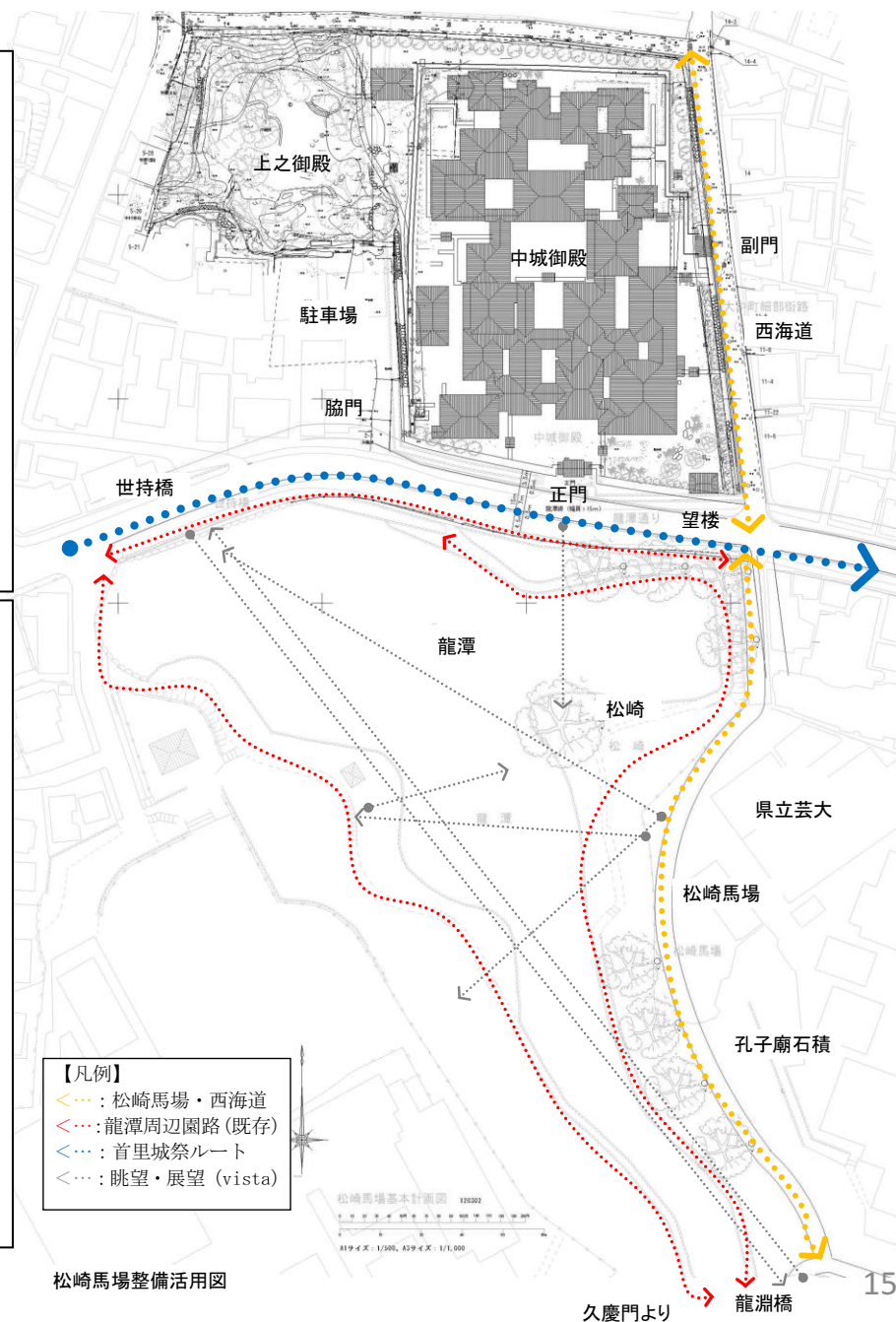
- 松崎馬場が復元されると久慶門からの中城御殿へのアクセスが良くなる。中城御殿からの景観、世持橋からの首里城を含めた景観、龍淵橋からの景観、西海道への景観、西海道からの景観等多様な眺望に配慮する。
- 復元される松崎馬場そのものが展示物と言えることから、多様な鑑賞ができる工夫を行う。松崎馬場は総延長約200mであり徒歩で約7分程度である。また龍潭一周は約650mであり徒歩で約20分程度であり、龍潭を含めた利用に配慮する。

#### 道広場としての多様な活用

- 首里城祭と連携した活用が考えられる。首里城祭でも龍潭通りから芸大入口付近へも出店が出ており、イベント空間としても利用可能である。

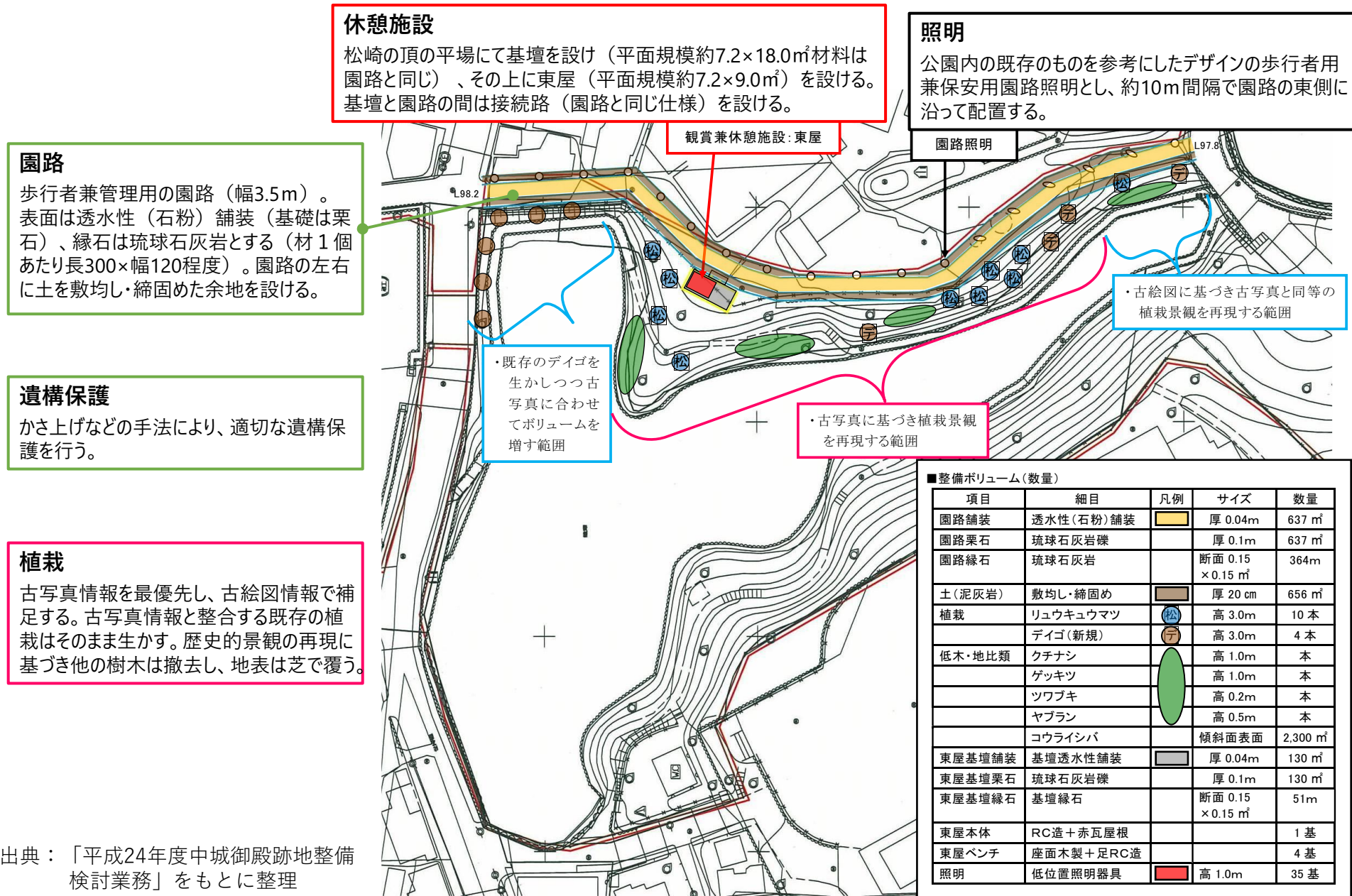
#### 中城御殿へのサインの設置

- 松崎馬場の復元が行われると首里城の出口である久慶門から中城御殿へのアクセスが良くなるため、サイン等で中城御殿を案内する。



# 6.松崎馬場・龍潭整備に関する現行計画の概要

## ②配置検討図（案）



出典：「平成24年度中城御殿跡地整備検討業務」をもとに整理